

令和6年度佐賀市環境審議会 第2回地球温暖化対策等検討部会 議事録

◆ 開催日時

令和6年9月13日（金） 10時00分～12時00分

◆ 開催場所

佐賀市役所 大財別館4階 4-2会議室

◆ 出席委員（敬称略）

岡島俊哉（部会長）、関清彦、草場真智子、松尾真理子、高橋朋子、中村佳代、中野千歳

◆ 欠席委員（敬称略）

松本考司

◆ 事務局

宮崎環境部長

環境政策課（梶山副部長、石川室長、西岡主査、小柳主任、浦川主任、前田主任）

循環型社会推進課（馬場副部長、羽立参事、王丸副課長）

環境保全課（大家課長）

◆ 傍聴者

1名

◆ 議事要旨

1 開会

2 議事

(1) 第3次佐賀市地球温暖化対策等実行計画（区域施策編・事務事業編）の策定について

《事務局説明》

資料1-1、資料1-2

《意見交換等》

○会長

ただいま事務局から説明を受けた。ご意見、ご質問があれば伺いたい。

#### ○委員

戦略や方向性等きれいにまとめられている。

p. 23 において、電力と化石燃料が比較されており、化石燃料を減らすことが鍵となっているが、電力も化石燃料由来の部分もあるかと思うので、その部分も減らす方向で進めることができるとうい。

戦略としてエネルギー効率の転換や、化石燃料の使用の減少等が挙げられており、電力の使用自体も減っていくと考えられるためよいと思う。電力の化石燃料由来の部分について資料に載せる必要はないが、把握しておいた方がよい。

再生可能エネルギーと化石燃料を比較すると、現状は、再生可能エネルギーの比率が低い。将来的に再生可能エネルギーの利用を増やし、環境負荷が低減できればいいと思う。

p. 29 において、太陽光と太陽熱を比較したグラフがあるが、太陽光は電力 (MW) で、太陽熱は熱量 J で記載があり、数字だけみると太陽熱が多いように見える。熱をエネルギーとして利用する戦略を挙げてはどうか。

p. 29 最後に「地中熱のポテンシャルが大きいという」記述があるが、熱の利用は検討されていないので表現を変更した方がいいのではないかと。また、電力についてふれておくことで、第 3 章の施策につながると思う。

#### ○部会長

MW と GJ の単位の件について、一般に MW と GJ と言われてもピンとこないし、簡単に比較はできないと思うが、このような数字を並べるときは、単位を揃えるべきである。換算係数を利用すれば単位を揃えることができるので、比較が可能となり、問題の抽出や、課題を設定し評価ができる。数字の扱い方については、市民がわかりやすいように変更するべき。

#### ○委員

p. 29 のグラフについて、グラフの長さに着目してしまい、実際どうなのかわかりづらい。例えば、「東京ドーム何個分」等の説明があるように、わかりやすい表現で例えてもらえると理解しやすい。

#### ○委員

(前述の意見にあったように) 市民目線で書いて、身近に感じられるようにするべきである。p. 18、19 の写真は身近に感じられ、市民を引き付けるような工夫がされている。

#### ○事務局

単位を揃える等、市民目線で改善したい。

エネルギー構成について、資源エネルギー庁が公表しているが、エネルギーの自給率の変化が、排出量にどの程度効果があるのか、コラム的な表現で対応したいと思っている。

太陽光の J と MW については、MW は電力を作るとのこと。J は、熱そのものである。それぞれ利用の仕方が異なってくると思うので、J と MW は分けて、わかりやすいように表現したい。

○委員

内容が難しいため、一般の市民向けにわかりやすい見せ方にするべき。

p. 43、44 の市民や事業者の行動の一覧のようなものを、資料の中にもっと入れることで、市民の理解度が高まると思う。

○委員

基本的な流れ等に関しては問題ないが、一般の方向けには内容が難しいと思う。今後コラム等を増やすとよい。

温暖化の背景の説明部分で、「地球温暖化」や「気候変動」等の同じような言葉があり、p. 9 では「地球温暖化」、p. 10 では「気候変動」、p. 11 では「気候変動」、p. 36 では「温暖化による影響」とある。「地球温暖化」と「気候変動」の言葉が使い分けされているか。コラムでこれらの似たような言葉の関連性等を説明して欲しい。また、「地中熱」や「地熱」という言葉も出てきている。言葉の説明・補足をお願いしたい。

また、「デコ活」という言葉も一般には浸透していないため、補足を入れるべきである。

○事務局

環境に関する専門用語については、資料の後ろに用語集を掲載する予定である。ただ、市民が用語集まで目を通すかはわからないため、コラム等で説明を入れてわかりやすくしたい。

「地熱」という言葉は誤りのため、「地中熱」に変更する。

計画自体は、内容量も多く、市民にそのままの形で届く機会は少ないかと思う。実際に市民の目に触れるときは、概要版や市報に掲載する等の様々なツールを使用した形かと思う。また、先ほど「デコ活」という言葉が浸透していないとあったが、浸透していないことが問題であり、環境省も苦勞している。計画を作成した後の、公表方法の工夫が重要だと考える。どのように計画の内容を抜粋し、浸透させるか、工夫・検討していきたい。

○委員

p. 17 の佐賀市の主な動向について、ゼロカーボンシティさがし推進パートナーについての記載があるが、現状の数や増加件数、目標等の具体的な数値を記載していただきたい。

計画から、地球温暖化に関する現状や対策等は読み取れるが、これからどうよくなるのかの明るい話が見えてこない。計画に、未来の明るい話等を入れ込めたらいいと思う。

○事務局

パートナーについては、現在3年間で160社の登録がある。これをいかに伸ばすのか等の目標設定も行って予定である。また、これまでの表彰制度等を見直し、どうすれば行動変容につながるか検討しているところである。

地球温暖化は、人類の課題であり、多少、苦勞してでも取り組まなければならない。欧米人は、温室効果ガスの削減を楽しむことができるが、日本人は楽しむことができないと言われている。温室効果ガス削減に対して、楽しんで取り組める部分もあるが、やらなければならないという市民の意識を高めることが重要である。

#### ○委員

地球温暖化は、解決すべき課題だと考えられているが、何をすればいいのか、何につながるのかわからない。私たちが何をすればいいのかを伝えていくことが大事だと思う。

先日、小学4年生がエコプラザに見学に行った際に、彼らにとって新しい発見があり、自分たちの日頃の行動が何につながるかを知ることができた。これは大人も同様であり、みんなが知り、取り組むことで目標達成につながると思う。概要版では、一目見て課題や取り組むべき行動等が伝わる内容になればいいと思う。

#### ○事務局

以前、岡島会長から部門ごとの削減目標の達成に向けた、数値的なゴールを示した方がよいのではないかという意見を頂いていた。

産業・業務部門においては業務形態が異なるため、数値的ゴールを示すのは難しいが、家庭部門においては市民の行動・取組等をまとめた資料の作成を検討しているところである。

#### ○委員

施策の中で再生可能エネルギーの導入が一番大きなところだと思うが、(p.29 再エネ導入ポテンシャル調査の結果) 荒廃農地(再生利用困難)の割合が一番大きく、すぐに太陽光をエネルギー化することが難しいように見受けられる。そこをうまく使えたらいいのではと感じる。具体的にどのようなアイデアがあるか。

#### ○事務局

ポテンシャルのページに荒廃農地が多いと記載があるが、これは太陽光の導入が出来ないという意味ではなく、農業が行われていないということである。

#### ○委員

すぐに農地として使用できない場所をエネルギー獲得のために利用できると理解した。例えば、バイオマス関係のチップになるような木を植えたり、太陽光エネルギーを作ったり等の戦略が考えられるが、エネルギーとして利用できればかなりポテンシャルは大きいと考えて

いい。具体的なアイデアはあるか。

○事務局

このポテンシャルは、場所があるということを示しているだけである。九州は、太陽光のエネルギーが余っており、現在メガソーラーを作ることはできない。本市では、個人や事業者における自家消費の普及・促進を目指している。例えば、住宅の屋根や営農型としてパネルを設置し自家消費していただきたい。電力の買取りは難しい。電力の自家消費の可能性があるが、広げることは難しいが、検討していきたい。

○委員

メガソーラーの設置に向かうのではと不安を感じていたが、(今の説明で)正しい方向性で進んでいくのだとイメージできた。

将来ビジョンの絵は夢があり、子どもや将来の世代にとっていい絵だと思う。また、イラスト中に「エリートツリー」等の文字が入っているが、説明や後述の部分とどう関係があるのか等付け加えるといいのではないか。

○事務局

後述の部分との関連付けについては、できると思うので検討したい。

○委員

p. 45 脱炭素型のまちづくりについて、主な取組の中にシェアサイクルについて記載されているのがよい。実際に、海外からの旅行者がシェアサイクルを使用して喜んでいる姿を見かけた。シェアサイクルは、有効に活用されていると感じた。

太陽光発電に関して、数年前に家庭用のポータブル電源を購入したが、購入後1年半から2年程度でパネルがうまく動かなくなった。パネルの耐用年数があり、長持ちしないようである。また、パネルを破棄する際に環境負荷をかけてしまうようである。

自分ができる取組を行っており、ゴミ袋は小さいものを使用し、生ごみについてはコンポストを使用している。

個人用の太陽光パネルの価格は10万円程であったが、すぐに使用できなくなって残念だった。個人や家庭向けにポータブル電源の購入等の補助はあるのか。

県全体で環境に対して活動していると思うが、県と市のタッグの組み方はどうなっているのか。県ではポイント制の取組をしているようだが、市ではどうか。

○事務局

太陽光パネルの耐用年数は20~30年程である。国では、一定以上の発電規模に対して、廃棄費用を徴収する仕組みが始まったところである。

本市では、家庭用ポータブル電源の補助はないが、太陽光の導入について興味を持っていただけるのは大変いいことかと思う。

ごみについては、プラスチックをいかに減らすかが重要な問題である。残念ながら、現在プラスチックの製造量は、増加している。

県との連携について、国からも県と市町は連携して取り組むよう言われている。県では再配達の防止の補助金、パークアンドライドの補助金、マイボトルの運動などを行っており、佐賀市も県と一緒にやって取り組んでいる。佐賀市だけではなく、県全域でしたほうがいい取組もあるので、県と他の市町と一緒に取組、取組を増やしているところである。

#### ○委員

大きいごみ袋を使用することが、ごみを多く排出していると感じるようであれば、佐賀市の大きいごみ袋の値段を上げてみてはどうか。

#### ○事務局

本市でのごみ袋の導入は、平成8年頃から開始しており、その頃から燃えるごみ袋の値段は変更していない。大きいごみ袋の値段を上げたところで、一時的にごみの量は減るが、しばらくすると元に戻ってしまう。ごみ袋の値段については今後検討していきたい。

#### ○部会長

太陽光発電のエネルギーが余っていると話があったが、背景を説明していただきたい。

#### ○事務局

太陽光発電は、昼間しか発電できず、また曇りの日や雨の日も発電できない。それを賄うために、火力や原子力等のベース電源が必要である。どんなに太陽光を増やしても、ベース電源を落とすことはできないため、太陽光が余ってしまうというのが九州の現状である。

太陽光について昼間だけの発電等の問題はどうしても避けられないものであり、国としては、風力発電の導入、化石燃料を減らすために、水素やアンモニアを混合して、燃焼するなどといった方法、原子力等もある一定の規模を保っていく等の施策がある。

#### ○委員

最近、コロナも明け、イベントや飲食店の出店が増加しているなかで、テイクアウト用のプラスチック容器について市で環境に配慮したものを使用するように規制や補助ができないか。

また、事業で重機を扱っているが、環境にいい重機に切り替える際補助等があると色々な企業が導入しやすくなると思う。重機は工事だけではなく災害時等にも使用されている。

○事務局

テイクアウトの容器については規制が難しい。令和4年度から、プラスチック資源法が施行された。この法律では、使い捨てプラスチックを減らす動きがあり、プラスチック製造業者や使用事業者にも、製造・設計の段階からプラスチックの削減を呼び掛けており、努力義務が課されている。また、色々な場面でプラスチック素材から紙素材等の容器に代わってきており、代替素材の導入が進み始めていると感じる。

一時期、佐賀市でも、食品ロス削減に向けてドギーバッグの導入を検討したが、店によってサイズ感や形が様々で、行政が一律に配布するのは難しく、導入は見送りとなった。プラスチックをどう代替素材に切り替えていくか、支援できるような方向性の施策を考えたい。

○事務局

重機の補助事業について、国で建設機械の電動化事業というものがあるようである。

○委員

規制は難しいとのことだが、佐賀市主催のイベント等では、使い捨てプラスチックの使用をしないように呼び掛けができると思う。

○委員

p.17にキャラクターが掲載されてあるが、初めて見た。PRをしているのか。

○事務局

昨年度末に完成したキャラクターであり、市民の行動変容に対する意識醸成の象徴とした。今年の6月に名前を公募して「このん」という名前に決まった。CO<sub>2</sub>の「こ(=CO)」と、無くすの「Non」という意味からなる。

佐賀市では、温室効果ガス削減のための行動の動画を作成したり、事業者の排出量の見える化をしたり、パソコンの消費電力を抑えたり、階段を使用したり等の省エネ行動による小さな積み重ねでCO<sub>2</sub>が何キロ削減できるかのラベルを作成している。これを市報やHPで普及・啓発をしたい。実行計画を作成した際には「このん」を活用していきたい。

○委員

英語表記だと分かりにくい。日本語で表記するべきである。

○事務局

日本語表記のパターンもあるので、そちらに差し替えたい。

○委員

第2次計画と比較して分かりやすくなっていると思う。特に、構成がいいと感じた。最初に将来ビジョンのイラストがあり、このイラストが佐賀市の実情に合っていると感じた。また、p.3の「2050年の目指すべき姿」は、生活の質が豊かになるということがイメージでき、わかりやすい表現だと思った。

資料を読み進めていくと内容が詳しくなり難しくなるが、できる限りわかりやすい言葉で表現しようとしているのが読み取れた。

運輸部門からの排出を削減するとなると、車運転を控えるのは不便だと感じるが、計画を見ると、それぞれの人にあった利用しやすい交通手段や空間の構築等、表現や内容もよく考えられていると感じた。

○部会長

p.34 実施体制について、実行組織・事務局は、環境部環境政策課に置くところがあるが、市長室には置かないのか。

○事務局

管理委員会のトップ、会長を市長にという考え方を検討している。

事務局は環境政策課に置くが、みんなに温暖化対策が全庁的に大事だと知っていただけるように組織づくりを行っていきたい。

○部会長

それでは、ほかに意見がないようであれば、本日の議事は終了としたい。

3 その他

なし